

令和8年8月千葉豪雨等の被害状況

令和8年9月18日

水災害調査・対策検討委員会(第1回)

国土交通省 水管理・国土保全局

目次

1. 本検討委員会について	・・・P.2
2. 令和8年千葉豪雨の気象状況	・・・P.3
3. 令和8年千葉豪雨の被害状況	・・・P.7
4. 令和8年9月の大雨(東海地方)について	・・・P.18
5. TEC-FORCEの活動について	・・・P.21

本検討委員会について

【目的】

○水管理・国土保全局所管分野において、想定を超える浸水、土砂・洪水氾濫等による大規模な被害発生後、迅速に災害の特徴を踏まえた被害軽減対策を講じるために、被害実態と浸水等の現象の把握、課題の抽出を行い、ハード・ソフト両面から総合的な対応策の検討を行うことを目的とする。

第1回（9月18日）は、令和8年8月千葉豪雨をはじめとする都市型水害を対象に、国土技術政策総合研究所や学識者などの専門家による現地調査の結果の報告とそれらにより明らかとなった課題について議論を行う。

○委員

池内 幸司	河川情報センター 理事長・東京大学 名誉教授
伊藤 佳子	文化放送 コンテンツ局 報道スポーツセンター・気象予報士・防災士
牛山 素行	静岡大学 防災総合センター 教授
尾崎 平	関西大学 環境都市工学部 都市システム工学科 教授
佐々木 恭子	フジテレビジョン コーポレート本部アナウンス局 局長補佐兼経営企画部・防災士
里深 好文	立命館大学 理工学部 環境都市工学科 教授
清水 義彦	群馬大学 名誉教授・国立研究開発法人土木研究所 水災害・リスクマネジメント国際センター研究・研修指導監
関根 正人	早稲田大学 理工学術院 教授
手島 千尋	株式会社エフエム東京 総合プロデュース局 報道・情報センター
◎中北 英一	京都大学総長特別補佐 名誉教授・
（座長）	一般財団法人 日本気象協会 顧問
二瓶 泰雄	東京理科大学 創域理工学部 社会基盤工学科 教授
山本 佳世子	電気通信大学大学院 情報理工学研究科 教授
矢守 克也	京都大学 防災研究所巨大災害研究センター 教授

○第1回臨時委員（令和8年千葉豪雨関係）

千葉県	県土整備部長
千葉市建設局	局長
茂原市都市建設部	部長
大網白里市	参事兼建設課長

※第2回以降、
豪雨で被災した他自治体
にも臨時委員として参加
いただくことを想定

○オブザーバー

道路局 環境安全・防災課 道路防災対策室
気象庁 総務部 企画課 防災企画室

当面のスケジュール

○第1回：令和8年9月18日(金) 16:00～18:00

【検討事項】

- ・令和8年8月千葉豪雨等の被害状況
- ・課題と対策の方向性（案）

○第2回：10月中下旬（予定）

※第2回では、千葉豪雨のほか、石川県、富山県、福井県、愛知県等での豪雨災害も取り扱う予定

気象状況

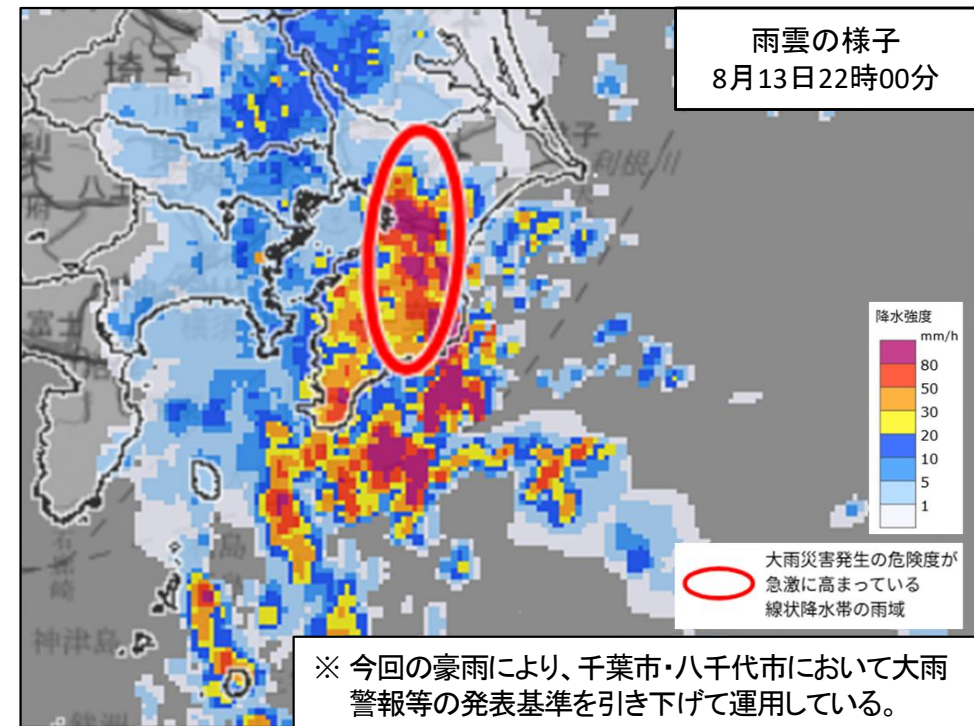
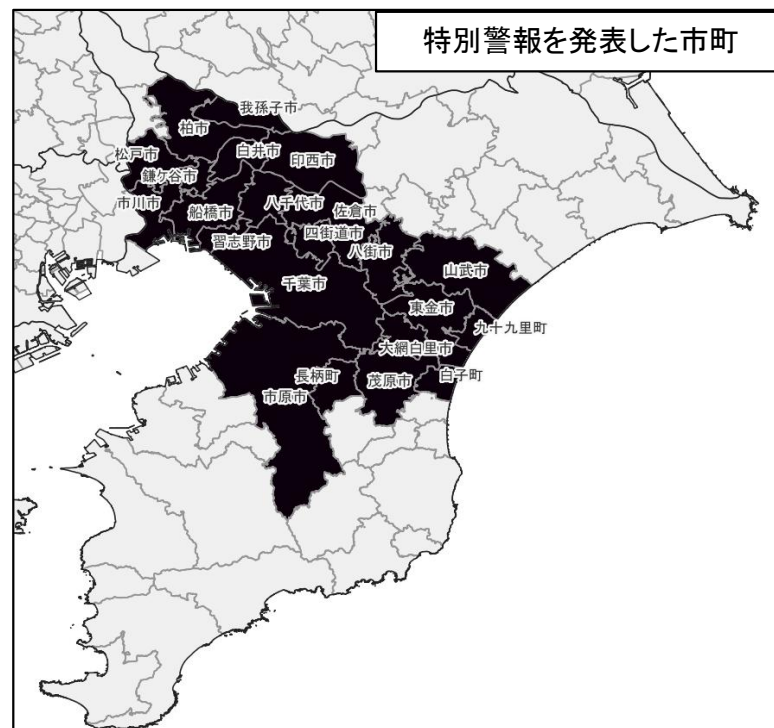
「令和8年8月千葉豪雨等を踏まえた内水氾濫対策検討会
(事務局:内閣府(防災担当))」第1回資料を元に作成

令和8年8月千葉豪雨

○千葉県では13日夕方以降、線状降水帯が発生し雨雲が長時間同じ所で停滞したため記録的な大雨となった所があり、特に千葉市では、平年の8月の総降水量の3倍以上となる360ミリを超える降水量を観測し、観測史上1位を更新した。

○この記録的な大雨により、千葉県には13日19時30分から14日05時15分にかけて、レベル5大雨特別警報やレベル5土砂災害特別警報を広い範囲に発表。

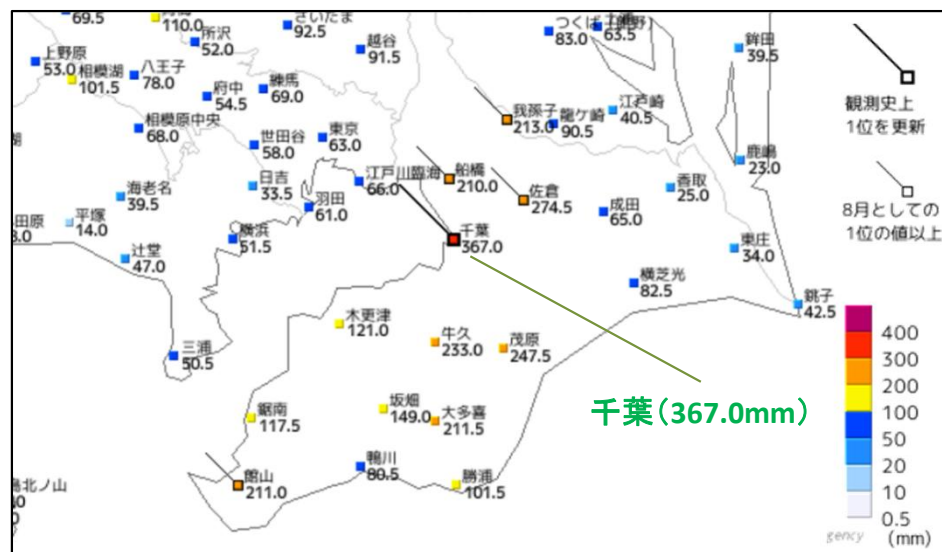
○13日は、この時期としては強い上空の寒気や、高気圧の縁を回り東から入る暖かく湿った空気により、雨雲が発達した。関東地方内陸部で日中の雨や雷雨により発生した下層の冷たい空気の影響で、この雨雲が西に動かず同じ地域に停滞したため、降水量が急激に増加した。



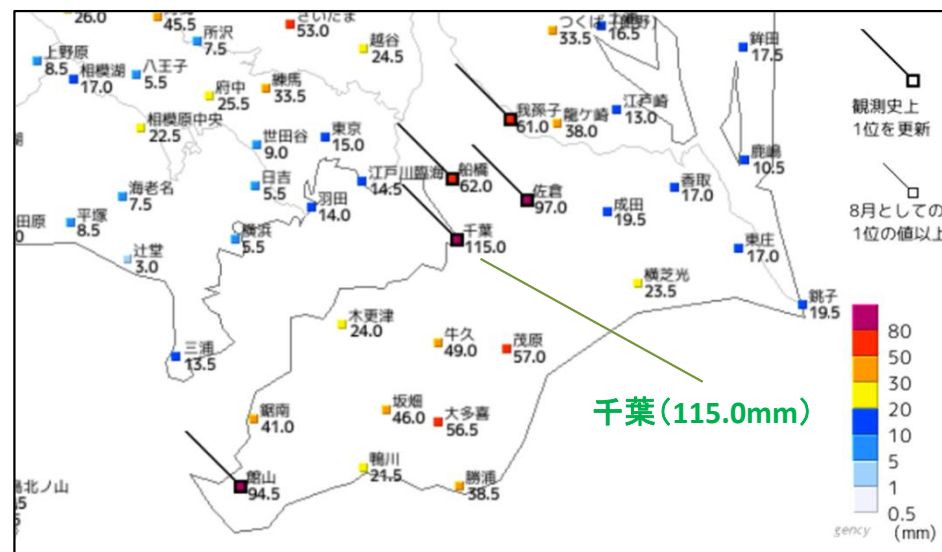
気象状況(降水量)

「令和8年8月千葉豪雨等を踏まえた内水氾濫対策検討会
(事務局:内閣府(防災担当))」第1回資料を元に作成

【雨】期間内の24時間降水量最大値 (8月13日00時～8月14日24時)



【雨】期間内の1時間降水量最大値 (8月13日00時～8月14日24時)



順位	都道府県	市町村	地点	観測値	
				mm	年月日 時分(まで)
1	千葉県	千葉市中央区	千葉(チバ) ※ 1	367.0	2026/8/14 10:00
2	千葉県	佐倉市	佐倉(サクラ) ※ 2	274.5	2026/8/14 16:40
3	千葉県	茂原市	茂原(モバラ)	247.5	2026/8/14 03:30
4	千葉県	市原市	牛久(ウシク)	233.0	2026/8/14 04:00
5	千葉県	我孫子市	我孫子(アビコ) ※ 2	213.0	2026/8/14 10:20
6	千葉県	夷隅郡大多喜町	大多喜(オオタキ)	211.5	2026/8/14 03:50
7	千葉県	館山市	館山(タテヤマ) ※ 2	211.0	2026/8/14 09:20
8	千葉県	船橋市	船橋(フナバシ) ※ 2	210.0	2026/8/14 06:40
9	埼玉県	大里郡寄居町	寄居(ヨリイ)	199.5	2026/8/13 00:10
10	群馬県	高崎市	榛名山(ハルナサン)	163.5	2026/8/13 01:30

順位	都道府県	市町村	地点	観測値	
				mm	年月日 時分(まで)
1	千葉県	千葉市中央区	千葉(チバ) ※ 1	115.0	2026/8/13 18:48
2	千葉県	佐倉市	佐倉(サクラ) ※ 1	97.0	2026/8/13 19:31
3	千葉県	館山市	館山(タテヤマ) ※ 1	94.5	2026/8/13 21:53
4	千葉県	船橋市	船橋(フナバシ) ※ 1	62.0	2026/8/13 18:43
5	千葉県	我孫子市	我孫子(アビコ) ※ 1	61.0	2026/8/13 14:30
6	千葉県	茂原市	茂原(モバラ)	57.0	2026/8/13 21:34
7	千葉県	夷隅郡大多喜町	大多喜(オオタキ)	56.5	2026/8/13 21:24
8	埼玉県	さいたま市桜区	さいたま(サイタマ)	53.0	2026/8/13 15:44
9	栃木県	小山市	小山(オヤマ)	51.0	2026/8/13 12:14
10	広島県	三次市	三次(ミヨシ) ※ 2	50.5	2026/8/13 17:10

※1:観測史上1位の値を更新した地点を示す。※2:これまでの8月の1位の値を更新した地点を示す。

出典:気象庁

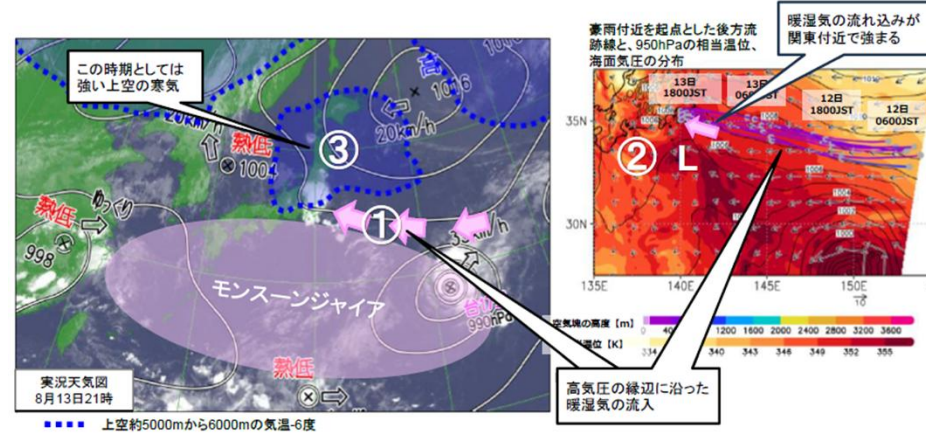
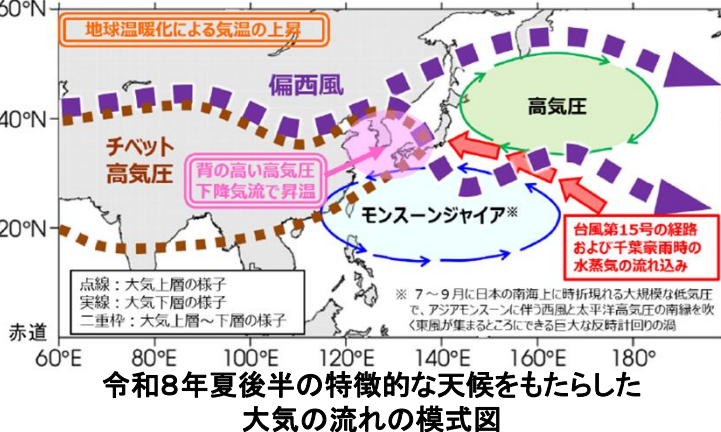
気象状況(千葉豪雨のメカニズム)

「令和8年夏を対象とした異常気象分析検討会の結果(気象庁)」を元に作成

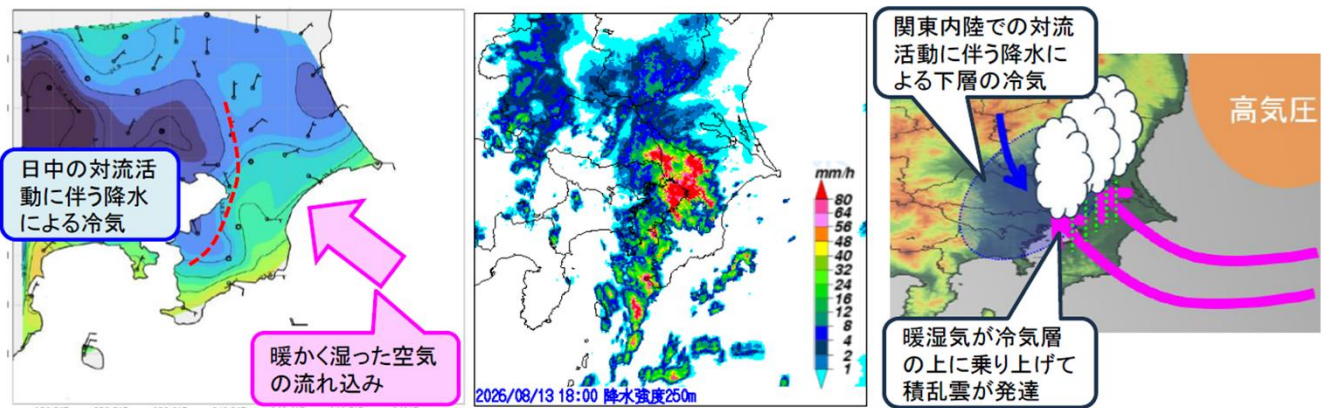
- 8月13日夕方から14日未明にかけて、千葉県で記録的な大雨となり、千葉で24時間降水量367mm、1時間降水量115mmを観測するなど、観測史上1位の値を更新。
- 房総半島付近では、大気の状態が非常に不安定であったとともに、日中の対流活動に伴う降水による冷気と、東から流入する暖湿気の間で局地的な前線が形成された結果、この前線上で線状降水帯が発生し、記録的な豪雨をもたらした。

■天候の背景

- 上空の偏西風が日本付近で大きく蛇行し、日本の東海上では南北2つに分かれて流れた。
- これにより、西日本では、偏西風の北への蛇行によって西日本付近に張り出した上層のチベット高気圧に伴う背の高い高気圧に覆われ、下降気流が卓越したことが影響したこと等により、高温・少雨となった。
- また、令和8年8月千葉豪雨等では、日本の南海上で形成されたモンスーンジャイアと、南に分かれた偏西風によって上層の寒冷渦が日本付近に南下したこと、および北に分かれた偏西風によって強まった日本の東海上の高気圧が寄与した。
- なお、夏の台風発生数が多かったのは、偏東風波動の活動が活発だったことが一因と考えられ、また、その背景には今年の顕著なエルニーニョ現象があったとみられる。



千葉豪雨の要因となった環境場について



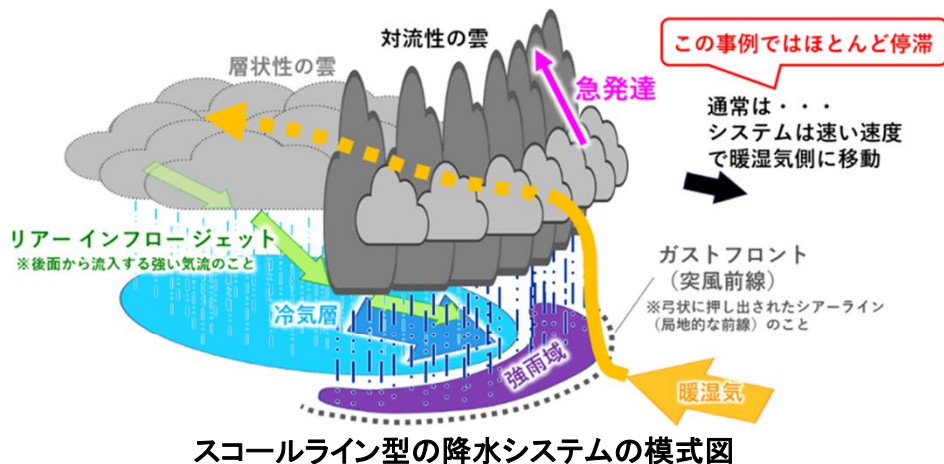
千葉豪雨をもたらしたメソ対流システムの発生・発達過程を示す図

関東内陸部では、日中の対流活動に伴う降水によって冷気層が形成・拡大し、その東端では東からの流入する暖湿気との間で徐々にシアラインが形成(左図)。このシアライン上で、豪雨をもたらしたメソ対流システム(線状降水帯)が形成(中図)。メソ対流システムは、流入する暖湿気が冷気層に乗り上げることで、積乱雲が次々に発生・発達する構造となっていた(右図)。

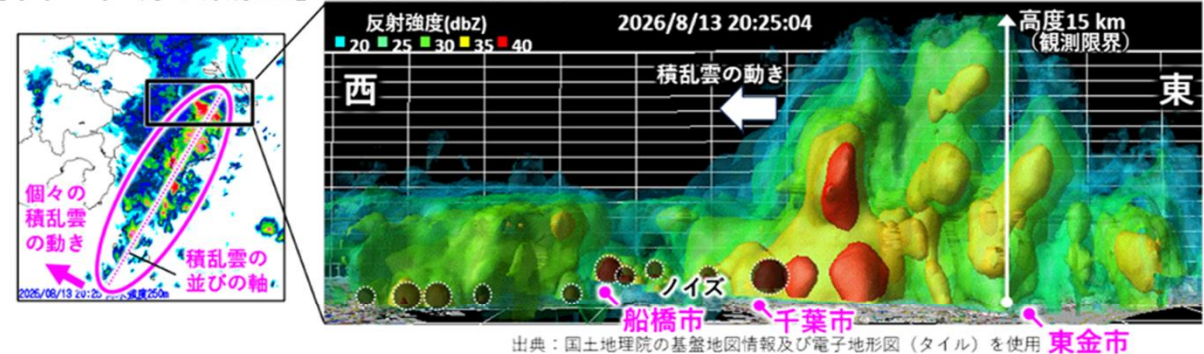
気象状況(豪雨をもたらした「スコールライン型」降水システム)

「令和8年8月千葉豪雨をもたらした線状降水帯の解析結果(速報)(気象庁)」を元に作成

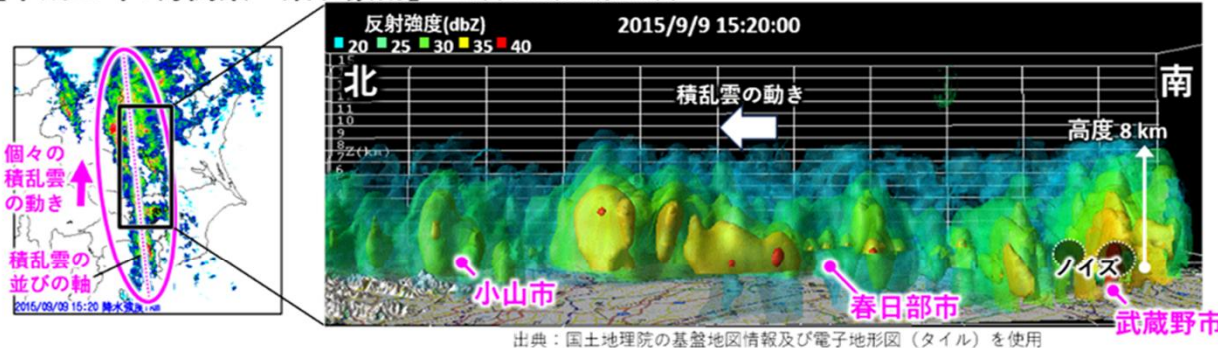
- 令和8年8月千葉豪雨をもたらした線状降水帯は、通常は移動しながら通過する「スコールライン型」の降水システムが房総半島付近で停滞したことにより発生した。
- 気象研究所の解析によれば、関東内陸部の冷氣層と東から流入した暖湿気が拮抗したことで、降水システムの移動速度が大幅に低下したと考えられる。
- また、強雨域では積乱雲内部に形成された渦が上昇気流を強化したことが、極めて強い降雨をもたらした一因と考えられる。



【令和8年8月千葉豪雨】



【平成27年9月関東・東北豪雨】



線状降水帯の構造(平成27年9月関東・東北豪雨との比較)

- (上) 令和8年8月千葉豪雨(下) 平成27年9月関東・東北豪雨をもたらした線状降水帯の構造
- ・左図は気象庁のレーダーで観測された雨雲の水平分布を表し、右図は気象研究所のフェーズドアレイレーダーで観測された雨雲の鉛直構造を表す。
 - ・関東・東北豪雨では、積乱雲の並びの軸に対して、個々の積乱雲がほぼ平行な方向に移動していたのに対し、千葉豪雨では、ほぼ直交する方向に移動していた点が大きく異なる。また、千葉豪雨では、関東・東北豪雨に比べて積乱雲がより高くまで発達した。

被害状況

■被災状況（人的被害等）

死者・負傷者 死者 13名 負傷者 46名 (令和8年9月9日 12:00 消防庁)

住家被害 全壊 12戸 半壊 2,183戸 一部損壊 273戸 (令和8年9月9日 12:00 消防庁)
床上浸水 1,054戸 床下浸水 2,736戸

停電 最大 約46,980戸 (8/13 22:00時点) 全て復旧済み (令和8年9月9日 11:00 経済産業省)

断水 最大 約100戸 (千葉県千葉市) 8/19に断水解消済み (令和8年9月9日 12:00 国土交通省)

被災車両 おおむね3,000台 (国土交通省推計)

■被災状況（インフラ被害） (令和8年9月9日 12:00 国土交通省)

道路 県道等（千葉県）で被災による通行止め（千葉県 1 区間（法面崩落））
→ 発災後、圏央道、千葉東金道路、国道16号などで法面崩落、冠水等により通行止めが発生。
→ 高速道路・国道は8月17日までに全て規制解除。県道も順次規制解除され、県道1区間で通行止めが継続。
千葉県内の道路上の被災車両は、8月31日までに全て撤去が完了。（最大約 3,100 台）

上下水道 (水道) 千葉県（千葉市）において水道管破裂により断水が発生（最大断水戸数約100戸）。8/19に復旧済。
(下水道) 処理場：菊間終末処理場（市原市）で浸水により他処理場への汚泥圧送機能停止(水処理機能に影響なし、応急復旧済)
ポンプ場：八千代ポンプ場等の3施設で浸水により機能停止(応急復旧済)

河川 千葉県管理の31河川111箇所では護岸の変状などを確認し、応急対策完了済。

土砂災害 305件（千葉県304件、神奈川県1件）人的被害無し。うち、人家被害に繋がった土砂災害47件。

空港 成田国際空港：6,880名の空港内での滞留者あり（8/14 3:00時点）→8/14 9:00滞留解消

鉄道 最大で5事業者 14路線で運転見合わせ



都川(千葉県千葉市中央区)



土砂災害(千葉県千葉市緑区越智町)



法面崩れ(千葉県千葉市緑区)



路盤流出(土気駅)※事業者提供

被害状況(浸水家屋等)

○ 8月13日からの大雨により、千葉県内で全壊 14棟、半壊2,694棟、一部破損222棟、床上浸水1042棟、床下浸水3070棟が発生※。※千葉県防災危機管理部 令和8年8月千葉豪雨について(第25報)より

八千代市
床上浸水30棟、床下浸水153棟



佐倉市
床上浸水39棟、床下浸水127棟

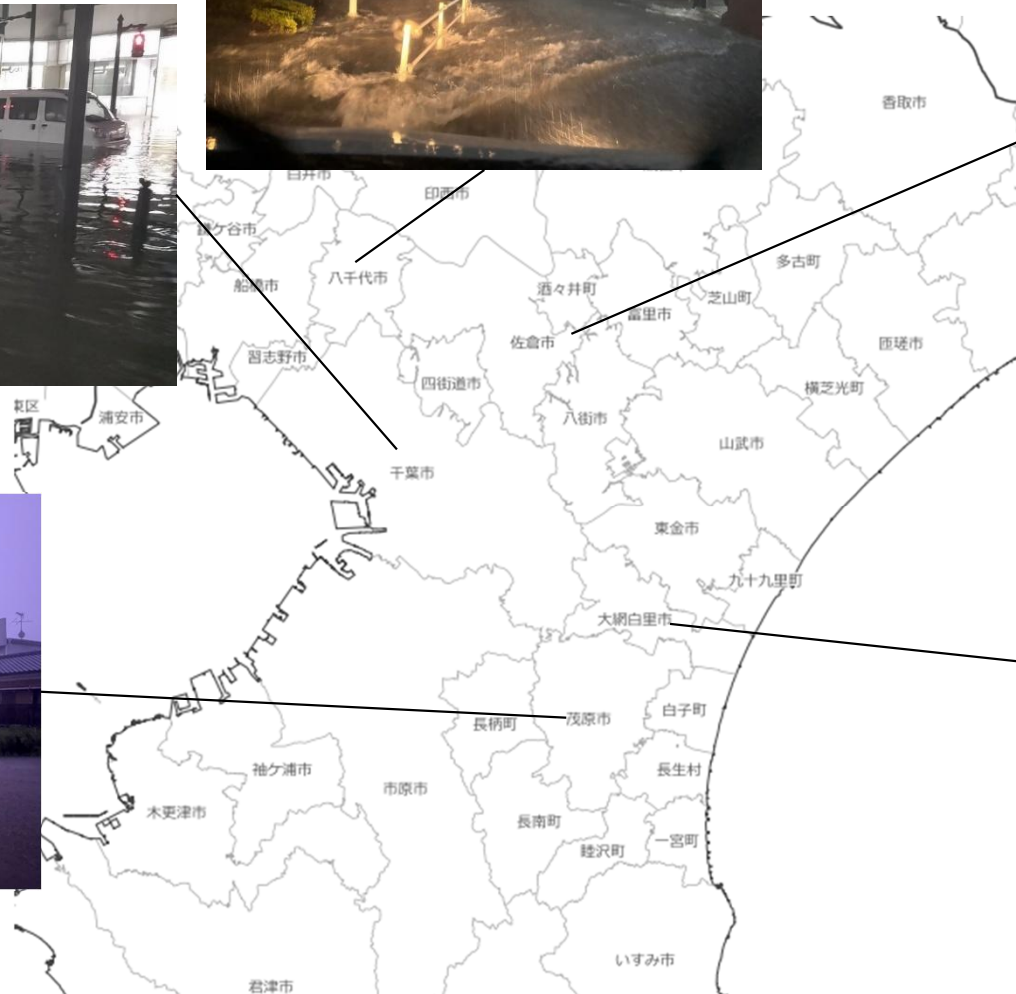
千葉市
床上浸水 88棟床下浸水395棟



茂原市
床上浸水21棟、床下浸水206棟



大網白里市
床上浸水168棟、床下浸水230棟



被害状況(被災車両)

「令和8年8月千葉豪雨等を踏まえた内水氾濫対策検討会
(事務局:内閣府(防災担当))」第1回資料を元に作成

- 記録的な降雨により広範囲で道路が冠水し、多数の車両が浸水・水没し、交通機能にも影響した。
- 関東地方整備局において、千葉市に対し、TEC-FORCEによる被災車両移動の支援やレッカー車最大17台の派遣、仮置き場の提供などを実施。
- 8月18日に設置した、国、県をはじめ関係機関で構成するプロジェクトチームにおいて、被災車両への円滑な対応に向けた取り組みを推進。
- 千葉県内の道路上の被災車両は、8月31日までに全て撤去が完了。(最大約3,100台)

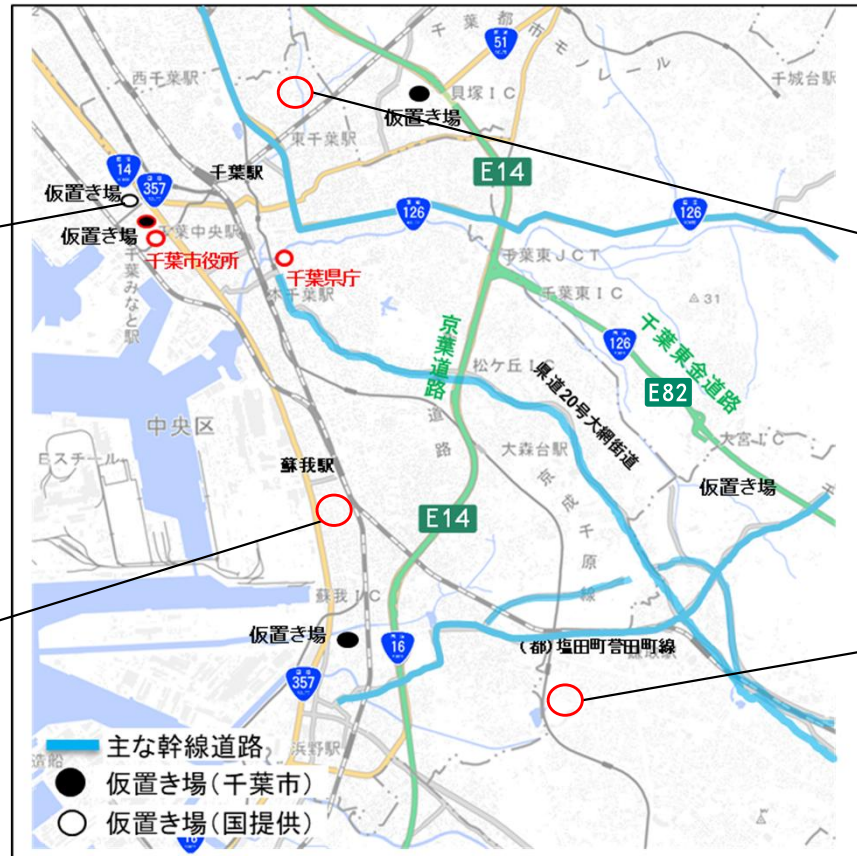
○路肩等から仮置き場への移動



・車両仮置き場の状況
(国提供地:国道357号千葉市役所付近)



・路肩から搬送



○交通阻害車両の路肩への移動 (8月16日～)



・路肩への移動(車両用移動用装置)



・路肩への移動(人力)

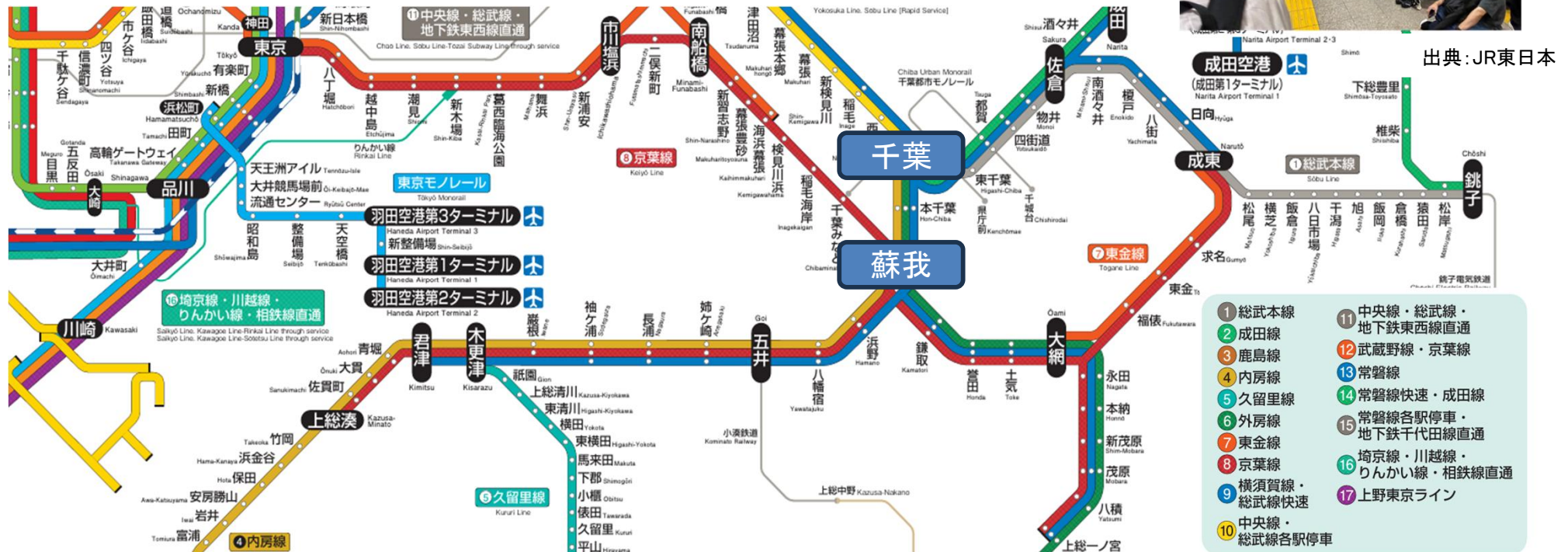
被害状況(帰宅困難者)

「令和8年8月千葉豪雨等を踏まえた内水氾濫対策検討会
(事務局:内閣府(防災担当))」第1回資料を元に作成

- 令和8年8月千葉豪雨では、鉄道の運転見合わせ等により、千葉駅や蘇我駅などの主要駅周辺で多数の帰宅困難者が発生。
- 特に蘇我駅では駅周辺が浸水したことから、約4,000人が帰宅困難者となり、その多くが朝まで駅舎で過ごしたと報道もされている。

【JRの運行状況】

- 京葉線は19:10頃に海浜幕張～蘇我間で運転見合わせ
- 内房線は18:10頃、外房線は17:30頃に運転見合わせ
- 内房線、外房線は22:01頃に当日中の運転再開見込みがないことを周知



出典: JR東日本webサイトに一部加筆

被害状況(マンション等の地下浸水)

「令和8年8月千葉豪雨等を踏まえた内水氾濫対策検討会
(事務局:内閣府(防災担当))」第1回資料を元に作成

- マンションの地下に設置された電気設備の浸水による、停電の発生。
- 千葉市の多数のマンションでは停電に伴う断水、エレベーター停止等が発生。
- 浸水想定区域外であった千葉大学医学部附属病院において、地下にあった排水管や、ポンプ・電気基板が泥水をかぶって故障し、手術等に支障が生じる等、多数の病院で浸水被害が生じた。

セントマーガレット病院(八千代市)の被害状況

13日	19:30	- 外は90cm～160cm程度まで水量が上昇 - ボイラー冠水 - 揚水ポンプ冠水 - 一部の空調機器冠水 - MRI室、サーバー室浸水継続 - 浸水圧力により霊安室側出入口ドア破損
	23:00	浸水止まらず、水量がコンセントに至り、漏電および感電の危険性がある為、地下対応中止
14日	—	- 水道 揚水ポンプ使用不可 - 胃カメラ 中止 - 透析 中止



出典：セントマーガレット病院



出典：セントマーガレット病院

千葉大学医学部附属病院(千葉市)

出典：千葉市 内水氾濫想定データに加筆



【参考】避難情報を支援するための情報発信

「令和8年8月千葉豪雨等を踏まえた内水氾濫対策検討会
(事務局:内閣府(防災担当))」第1回資料を元に作成

- 大雨による重大な災害から人命を守るため、重大な災害発生危険性が著しく高まった場合には大雨特別警報を発表するとともに、テレビ等を通じて広く周知し、最大級の警戒と命を守る行動を呼びかけている。
- 気象解説情報や時系列情報も災害の規模や今後の見通しを伝える上で有用な情報であるため、その内容が住民に理解され、避難行動につながるよう、自治体や報道機関と連携し、分かりやすく伝えることが重要。

気象庁、水管理・国土保全局 合同記者会見

【警戒レベル5相当】 報道発表資料 令和8年8月13日 気象庁

千葉県に レベル5大雨特別警報発表

- ・これまでに経験したことのないような大雨
- ・災害がすでに発生している可能性が極めて高い
- ・命の危険が迫っているため直ちに身の安全を確保

警戒レベル	取るべき行動
5	命の危険 直ちに安全確保!
4	危険な場所から全員避難
3	危険な場所から高齢者等は避難
2	自らの避難行動を確認
1	災害への心構えを高める

千葉県にレベル5大雨特別警報を発表しています。何らかの災害がすでに発生している可能性が高く、警戒レベル5に相当します。

関東甲信地方では、千葉の東に中心をもつ高気圧の南側から暖かく湿った空気が流れ込んでいます。上空の寒気の影響も加わり、大気の状態が非常に不安定となっており、断続的に雷を伴って猛烈な雨や非常に激しい雨が降っている所があります。同じような場所で大雨が降り続けていることから、増水している河川では氾濫が発生するおそれがあり、土砂災害の危険度が高まっている所では14日は少しの雨でも土砂災害が発生する可能性もあります。また、落雷や竜巻などの激しい突風が発生するおそれもあります。

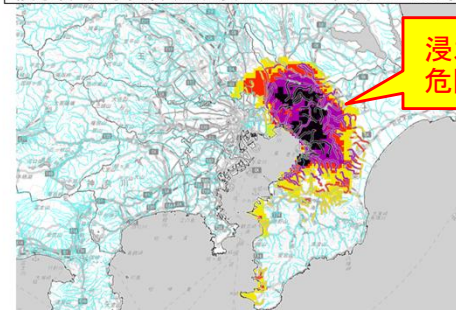
【雨の予想】
千葉県では、局地的に猛烈な雨が降り、大雨となる見込みです。
14日0時から15日0時までに予想される24時間降水量は多い所で、
関東甲信地方 200ミリ
線状降水帯が発生した場合は、局地的にさらに雨量が増えるおそれがあります。

【防災事項】
低い土地の浸水、河川の増水や氾濫、土砂災害に最大級の警戒をしてください。
落雷や竜巻などの激しい突風にも注意してください。発達した積乱雲の近づく兆しがある場合には、建物内に移動するなど、安全確保に努めてください。降ひょうのおそれもありますので、農作物や農業施設の管理にも注意してください。

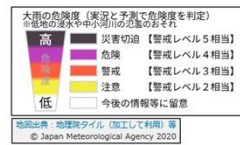
【補足事項】
今後発表する防災気象情報に留意してください。
次の「全般気象解説情報(大雨・氾濫・落雷)」は、14日5時頃に発表する予定です。

大雨キキクル

浸水害・洪水災害(重ね表示) 2026年8月13日19時30分



浸水害や洪水災害、土砂災害の危険度の高まりを地図上に表示



- 警戒レベル5に相当する「災害切迫」(黒)となっている場所では、重大な災害が切迫しているか、すでに発生している可能性が高い状況となっています。土砂災害警戒区域や浸水想定区域等の危険な場所からまだ避難できていない方は、いまいる場所よりも安全な場所へ直ちに移動等することが重要です。
- 警戒レベル4に相当する「危険」(紫)となっている場所では、重大な災害がいつ発生してもおかしくない状況となっています。危険な場所にいる方は速やかに安全な場所へ避難することが重要です。

全般気象解説情報(気象庁HP)

気象庁 Japan Meteorological Agency HOME 気象防災速報・気象解説情報等 都道府県選択 千葉県選択

一覧に戻る

全般気象解説情報(大雨・氾濫・落雷) 第1号

2026年08月13日22時34分 気象庁発表

千葉県では、これまでに経験したことのないような大雨となつていす。14日明け方にかけて低い土地の浸水、河川の増水や氾濫、土砂災害に最大級の警戒をしてください。引き続き千葉県では、線状降水帯が発生して災害発生危険度が急激に高まるおそれがあります。

【気象概況】
千葉県にレベル5大雨特別警報とレベル5土砂災害特別警報を発表しています。何らかの災害がすでに発生している可能性が高く、警戒レベル5に相当します。

関東甲信地方では、千葉の東に中心をもつ高気圧の南側から暖かく湿った空気が流れ込んでいます。上空の寒気の影響も加わり、大気の状態が非常に不安定となっており、断続的に雷を伴って猛烈な雨や非常に激しい雨が降っている所があります。同じような場所で大雨が降り続けていることから、増水している河川では氾濫が発生するおそれがあり、土砂災害の危険度が高まっている所では14日は少しの雨でも土砂災害が発生する可能性もあります。また、落雷や竜巻などの激しい突風が発生するおそれもあります。

【雨の予想】
千葉県では、局地的に猛烈な雨が降り、大雨となる見込みです。
14日0時から15日0時までに予想される24時間降水量は多い所で、
関東甲信地方 200ミリ
線状降水帯が発生した場合は、局地的にさらに雨量が増えるおそれがあります。

【防災事項】
低い土地の浸水、河川の増水や氾濫、土砂災害に最大級の警戒をしてください。
落雷や竜巻などの激しい突風にも注意してください。発達した積乱雲の近づく兆しがある場合には、建物内に移動するなど、安全確保に努めてください。降ひょうのおそれもありますので、農作物や農業施設の管理にも注意してください。

【補足事項】
今後発表する防災気象情報に留意してください。
次の「全般気象解説情報(大雨・氾濫・落雷)」は、14日5時頃に発表する予定です。

今後の雨の見通し
や防災事項を解説

時系列情報(気象庁HP)

気象庁 Japan Meteorological Agency HOME 時系列情報(明日までの警報等の見通し) 千葉県 千葉市

要素: 全国 千葉県 千葉市の時系列情報(明日までの警報等の見通し)

要素: 全て 大雨・土砂災害・高潮 その他 警戒レベル: 全て [注意報級以上]

千葉市の時系列情報(明日までの警報等の見通し)

2026年08月13日20時17分発表

千葉市	13日								14日				15日	備考・関連する現象
	18-21	21-24	00-03	03-06	06-09	09-12	12-15	15-18	18-21	21-24				
1時間最大雨量(mm)	60	70	80	80	30	30	30	30	10	5				
24時間最大雨量(mm)	200													
大雨														
土砂災害														
高潮	潮位(m)	1.0	0.2	0.5	1.0	1.0	-0.1	0.0	0.9	0.9	0.4			

今後の雨の見通し(1時間降水量、24時間降水量)も発表

被害状況(河川付近の浸水・施設被害)

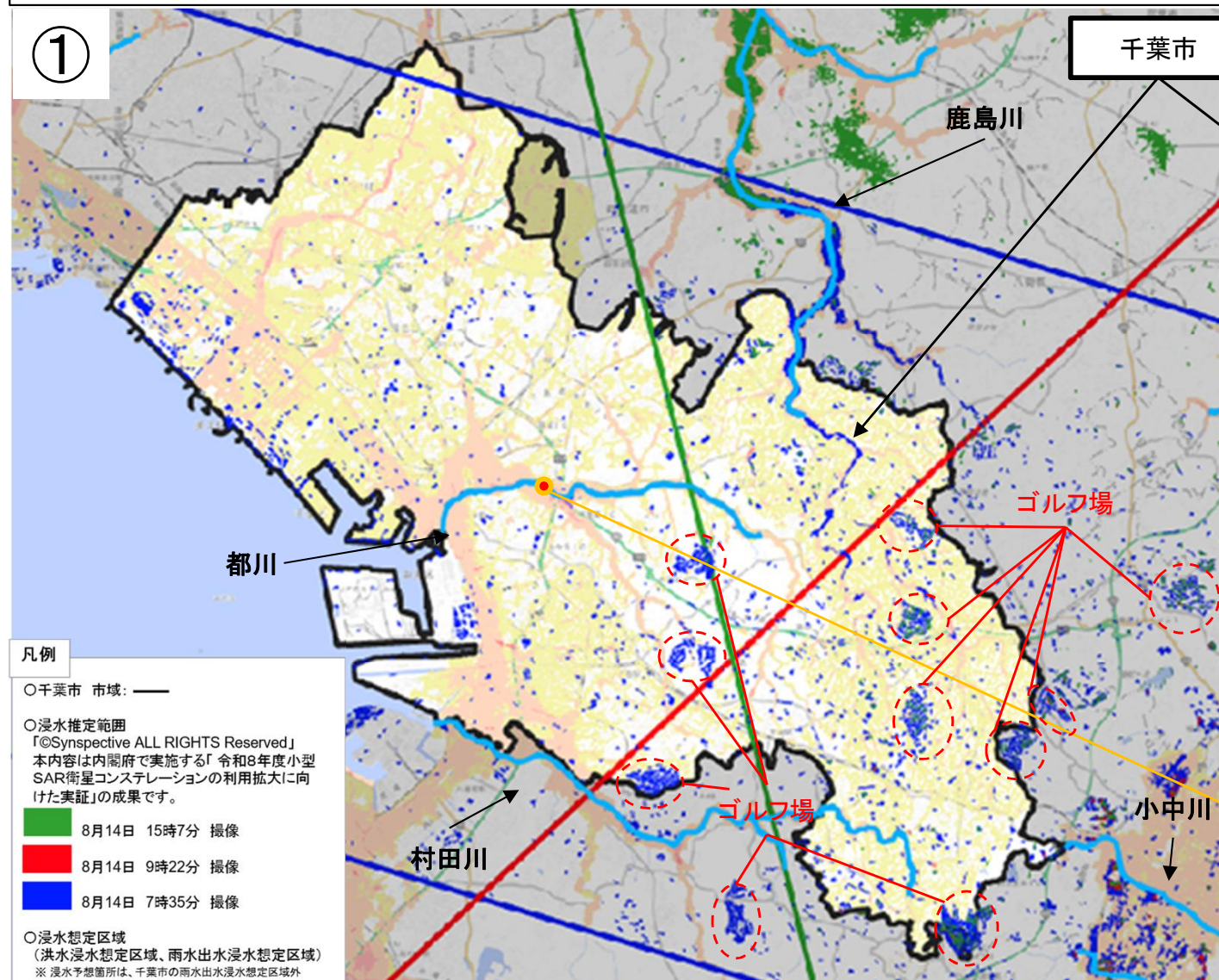
- 千葉県付近に線状降水帯が発生し、千葉県内の22の市町でレベル5大雨特別警報が発表された。
- 千葉県管理の17河川において浸水被害を確認。(浸水解消)31河川111箇所で護岸の変状などを確認。
- 応急対策を完了済。



千葉市における浸水範囲(推定)と浸水想定区域の重ね合わせ

○ 衛星画像により千葉市の浸水範囲を推定し、浸水想定区域図(想定最大規模)を重ね合わせた結果、浸水したと想定される範囲は概ね浸水想定区域内であることが確認できた。

①



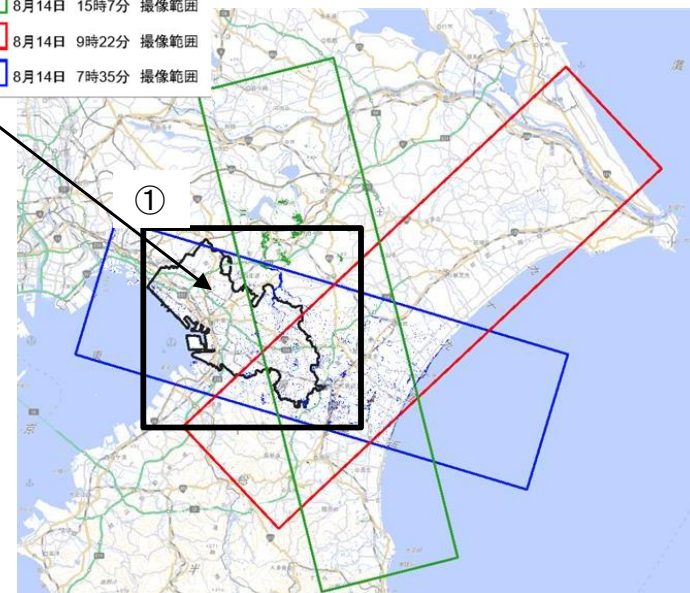
凡例

○撮像範囲範囲
「©Synspective ALL RIGHTS Reserved」

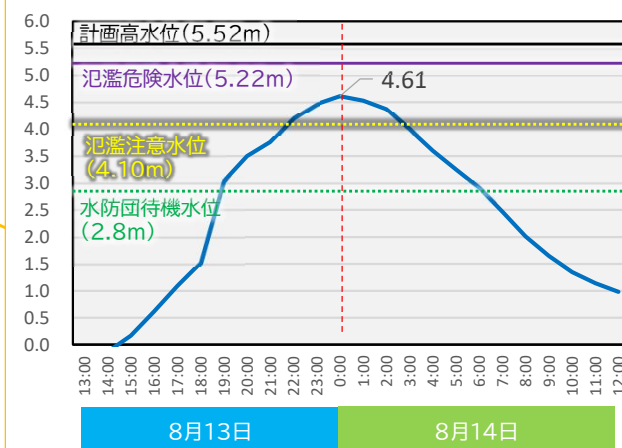
8月14日 15時7分 撮像範囲

8月14日 9時22分 撮像範囲

8月14日 7時35分 撮像範囲



都川 矢作観測所

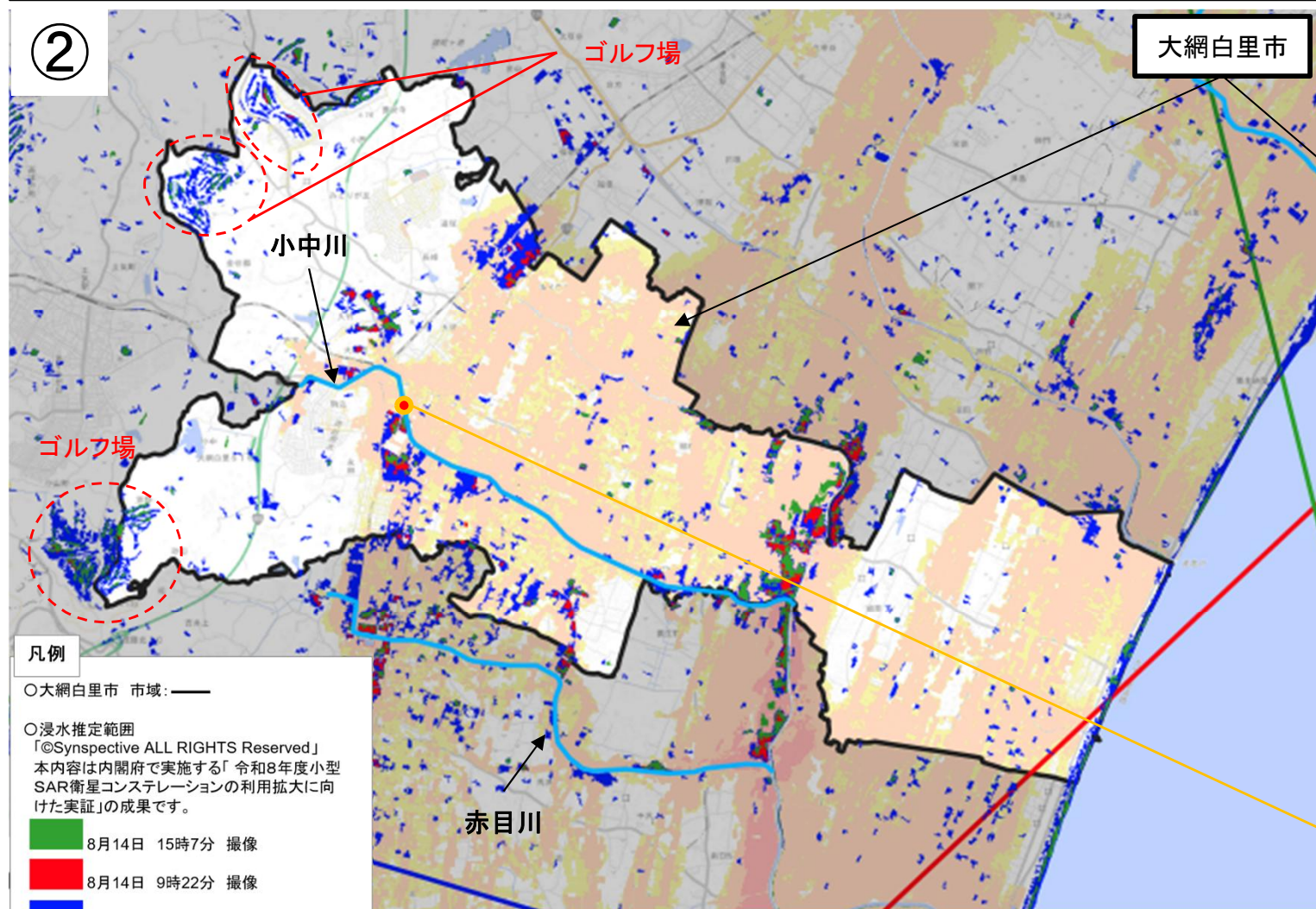


※発災直後のSAR衛星画像を用いた推定図であり、実際の浸水範囲と異なる可能性があります。

※河川は氾濫(溢水)が発生した河川を表示しています。

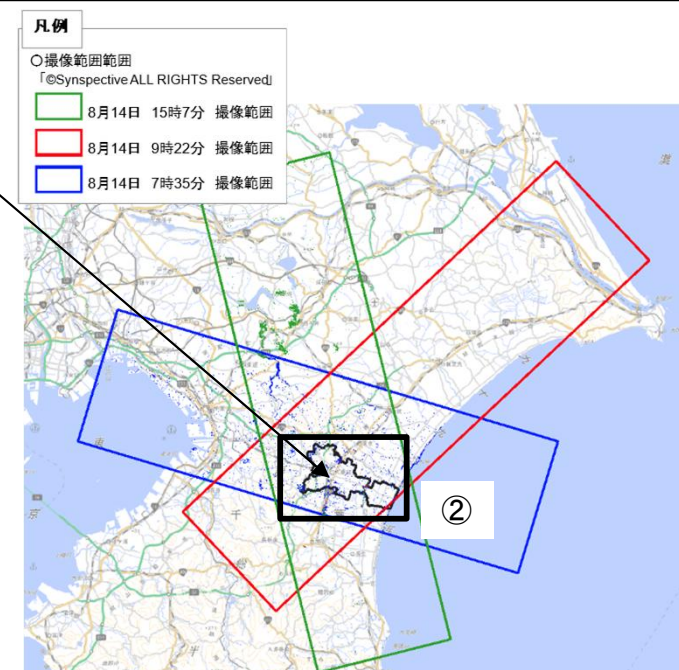
大網白里市における浸水範囲(推定)と浸水想定区域の重ね合わせ

○ 衛星画像により大網白里市の浸水範囲を推定し、浸水想定区域図(想定最大規模)を重ね合わせた結果、浸水したと想定される範囲は概ね浸水想定区域内であることが確認できた。

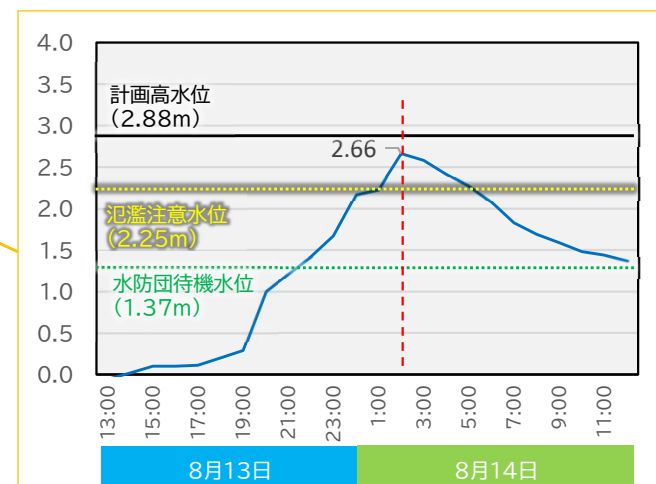


※発災直後のSAR衛星画像を用いた推定図であり、実際の浸水範囲と異なる可能性があります。

※河川は氾濫(溢水)が発生した河川を表示しています。



小中川 駒込観測所

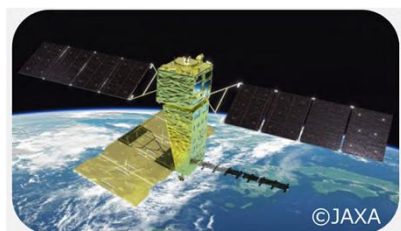


【参考】 浸水範囲の想定に用いた衛星情報について

- 大雨等が発生した際には、人工衛星の活用により広範囲の被災状況を把握することが可能
- 一方で、観測機会が利用可能な衛星数や観測頻度に依存するため、現状としては災害発生直後の迅速な状況把握には一定の制約がある

- ・ JAXA (ALOS-2、ALOS-4)に加え、近年は民間の小型観測衛星の打ち上げ数増加により、衛星コンステレーションの構築が加速

■ JAXA SAR衛星



ALOS-4 (2024年打上げ)

分解能 3m
観測幅 200km
観測機会 2回 / 日

ALOS-2 (2014年打上げ)

分解能 3m
観測幅 50km
観測機会 2回 / 日

※ALOS-2、ALOS-4ともに14日で同一軌道に回帰するが、対象地点の観測実績の有無や観測条件(観測角度・方向)によっては、解析・判読が困難または不可能な場合がある

※観測要請は約3.5時間前までに実施
(目安: 12時撮影は8:30まで、24時撮影は20:30まで)

■ 民間小型SAR衛星

SAR衛星	会社名	QPS研究所(日本)	Synspective(日本)
	分解能(Az×Rg)※2	0.46m×0.46m	0.25m×0.46m
	撮像範囲※3	14km×7km	50km×20km
	機数の実績※1	9機 (目標: 2030年に36機)	7機 (目標: 2028年以降に30機)

出典: 内閣府「宇宙政策委員会 第123回会合」宇宙政策基礎資料(令和8年7月22日時点)

【参考】SAR衛星画像の見え方と地表被覆の関係



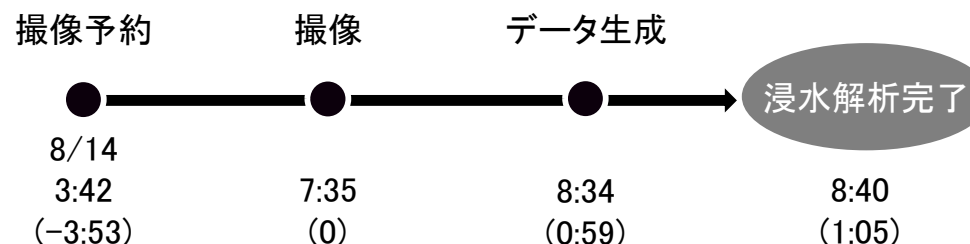
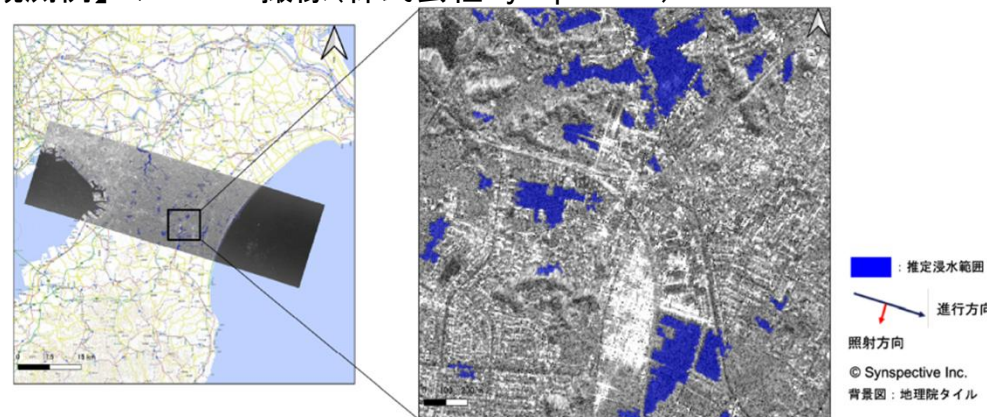
水面の場合の見え方

草地の場合の見え方

森林の場合の見え方

- ・ 千葉豪雨では、JAXA衛星による観測機会が得られず、民間小型SAR衛星活用により浸水域把握を実施

【観測例】8/14 7:35撮像(株式会社Synspective)



※括弧内は撮像時間からの差分

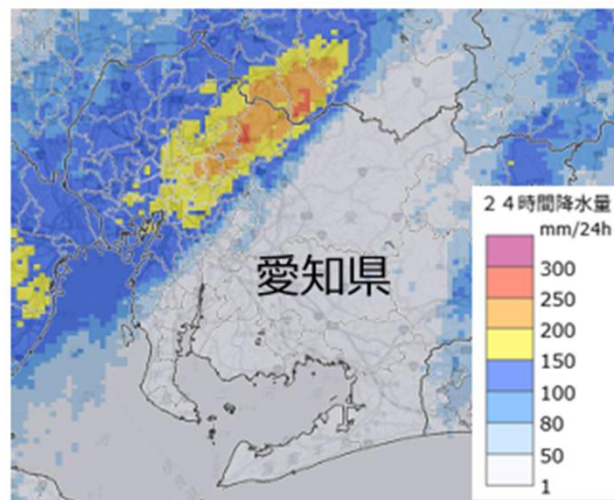
出典: 株式会社Synspective

- ・ 2023年度時点では「3回 / 日～1回 / 数日」程度の撮像頻度であったが、2030年度以降は約250回以上 / 日まで高頻度化される見込み
- ・ 高分解能の衛星打ち上げも進んでおり、特定地域の継続的な観測などが可能となりつつある

令和8年9月の大雨について(名古屋市内の浸水状況)

- 西日本や東日本に停滞する前線の活動が活発となったため、愛知県や岐阜県では8日(火)は、線状降水帯が発生し、気象防災速報(記録的短時間大雨)を相次いで発表。愛知県では8日は、24時間雨量が9月の平年の1ヶ月の雨量に相当する200ミリを超える記録的な大雨となり、特に8日夕方、愛知県名古屋で104.5ミリ、岐阜県多治見で93.0ミリの観測史上1位を更新する1時間雨量を観測。
- この大雨により、愛知県と岐阜県を流れる庄内川を対象に8日18時20分から9日00時40分までレベル5氾濫特別警報を発表。
- 令和8年9月8日からの大雨により、愛知県内で一部損壊6棟、床上浸水282棟、床下浸水512棟が発生※。

※9月8日大雨による被害情報について(第8報)(愛知県)より



解析雨量による9月8日24時
までの24時間降水量



名古屋の9月8日の
降水量の推移

出典:「愛知県の大雨の見通しについて(名古屋地方気象台)」

令和8年9月の大雨について(庄内川水系の状況)

- 名古屋市周辺では、線状降水帯の発生に伴い、記録的な短時間大雨に見舞われ、9月8日の16時頃には名古屋市中心部等で道路冠水が発生。
- その後も降雨が継続し、庄内川水系矢田川の瀬古基準観測所(名古屋市)で氾濫発生水位に到達し、レベル5氾濫特別警報を発表。

9/8の状況

16:00頃 名古屋市中心部の道路浸水が報道される

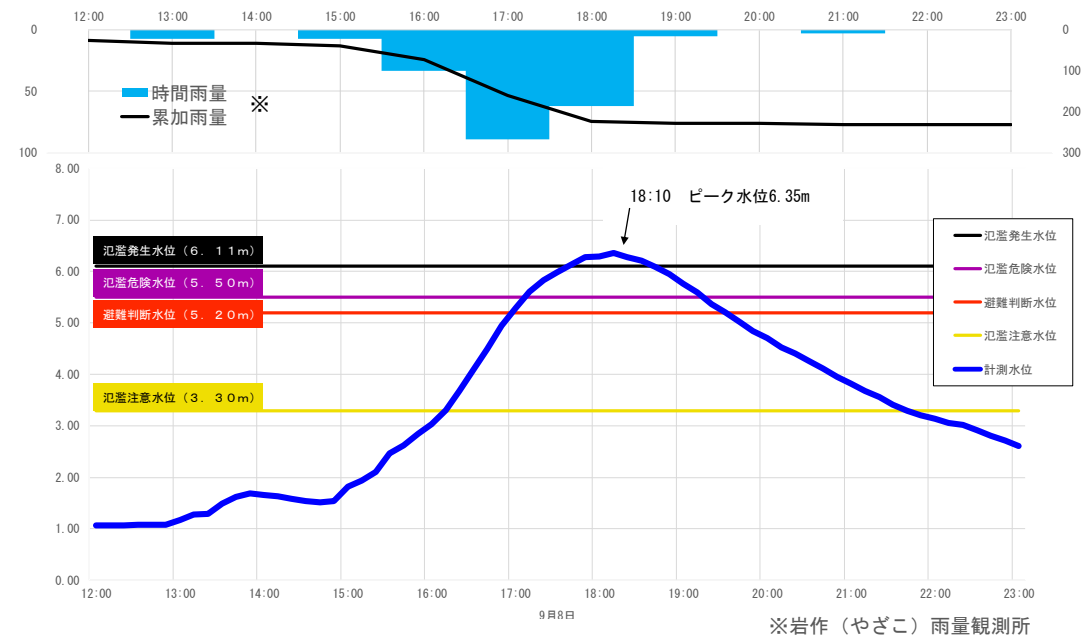
16:28 愛知県西部で線状降水帯発生

16:30 名古屋市付近で1時間に約100mmの猛烈な雨が降り、記録的な短時間大雨情報が発表

18:20 レベル5氾濫特別警報発表
(庄内川水系矢田川)



瀬古(せこ) 水位観測所 (庄内川水系矢田川)



19時頃の矢田川周辺の内水による浸水状況

令和8年9月の大雨について(帰宅困難者関係)

「令和8年8月千葉豪雨等を踏まえた内水氾濫対策検討会
(事務局:内閣府(防災担当))」第1回資料を元に作成

- 9月8日の前線による大雨により名古屋市などにおいて、公共交通機関が長時間運行を停止したことに伴い、多くの帰宅困難者が発生した。
- 名古屋市では平時から大規模地震の発生を想定した帰宅困難者を受け入れるための施設を一元的にとりまとめ、ウェブサイト(帰宅困難者支援サイト)で公表している。当日は、急遽大雨による受け入れの協力を依頼し、施設の開設状況や混雑度合いがウェブサイトやSNSを通じてタイムリーに周知され、多くの帰宅困難者が施設に滞在した。夜10時半頃までには多くの路線で運行が再開された。

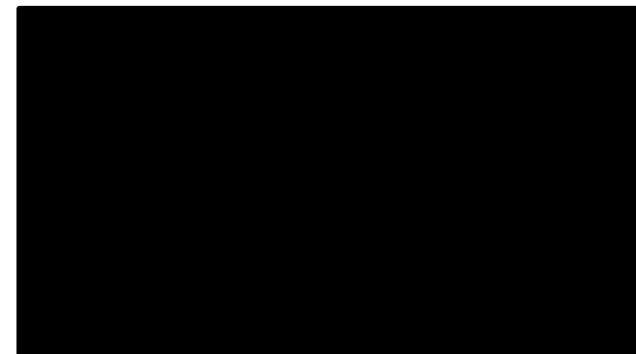
9月8日の帰宅困難者退避施設開設状況

- ・ 名古屋市からの退避施設の開設要請:17時21分
- ・ 退避施設は、名古屋駅、金山駅周辺、栄・伏見地区で最大17か所



名古屋市帰宅困難者退避場所マップ8日22時時点(<https://nagoya-bousai.maps.arcgis.com/apps/dashboards/fe3d75a5a32c49a8924b0bc1778e2bb1#>)

9月8日の大雨に伴う帰宅困難者への対応状況



退避場所についての情報発信



X.com

名古屋市災害対策本部から名古屋駅、金山駅、伏見駅・栄駅の周辺の方へ
大雨の影響で公共交通機関が運行を停止しております。
帰宅が難しい方のため、24時間の滞在を限度に「退避施設」が開設されております。

帰宅困難支援サイトはこちら
<https://plus.sugumail.com/usr/nagoya/doc...>

18:16・2026/09/08・267万回表示 出典:名古屋市防災公式X

名古屋市災害対策本部から名古屋駅、金山駅、伏見駅、栄駅の周辺の方へ
9月8日 18時15分配信

大雨の影響で公共交通機関が一部運行を停止しております。

帰宅が難しい方のため、24時間の滞在を限度に「退避施設」が開設されております。

> [帰宅困難者支援サイト](#)

出典:名古屋市HP

TEC-FORCEの活動について(千葉豪雨の例)

令和8年8月31日 17:00時点

- 令和8年8月13日から的大雨により、死者13名、住家等約4,100棟の浸水被害等が発生。
- ホットラインを7都県(5区46市17町)と構築し、リエゾンを6自治体(1県庁5市)に派遣して自治体のニーズを把握。
- 県管理の17河川において浸水被害や31河川111箇所で護岸の変状などが発生したほか、291件の土砂災害や最大約100戸の断水が発生。
- 国土交通省では、保有する排水ポンプ車及び照明車を活用し、昼夜を問わず排水作業を実施するとともに、防災ヘリ(あおぞら号)による広域的な被災状況の把握や道路・河川・土砂災害の被災状況調査を実施。(延べ830人・日のTEC-FORCE隊員を派遣)
- 浸水被害に伴う道路上の被災車両について、車両通行の安全確保のため、災害時応援協定に基づくレッカー車による支援に加え、専用台車(車両移動用ドーリー)を活用し被災車両を移動し道路啓開を実施。

■自治体ニーズの把握



自治体にリエゾンを派遣しニーズを把握(千葉県)

■広域的な被災状況の把握



防災ヘリによる被災状況調査(茂原市)

■排水ポンプ車による排水作業



浸水箇所の排水作業(佐倉市)

■照明車を活用した夜間作業



浸水の早期解消のため照明車を活用(茂原市)

■土砂災害の被災状況調査



土砂災害の被災状況調査(大網白里市)

■被災現場における技術的助言



千葉市との合同現地調査で技術的助言を実施(千葉市)

■被災車両の移動による道路啓開



専用台車を活用し被災車両を移動(千葉市)

■アンダーパス部の排水



排水ポンプ車を活用し排水作業を実施(鎌ヶ谷市)